

平成30年度 下関市地域公共交通会議（第1回）
議 事 録

平成30年4月23日（月）13：30～
下関市役所本庁舎新館 5階大会議室

1 開会

- ・今年度委員の紹介
- ・配布資料の確認
- ・下関市地域公共交通会議の目的の説明

2 会長挨拶

- ・会長挨拶
- ・出席人数と会議成立の報告
- ・議事進行の説明

3 議事

(1) 本日の審議事項について

- ・事務局が本日の審議事項について説明

事務局：議事「粟野地区コミュニティタクシーについて」

豊北町粟野地区にて運行しているコミュニティタクシーの継続運行が困難であり、運営主体である粟野地区振興協議会から「コミュニティタクシーは廃止したい」との意向があったため、審議いただきたい。

委員A：利用者数の実績が、人口比率ではどうなっているのか。

事務局：粟野地区は398世帯、人口833人。うち男性は397人、女性は436人である。年間利用者数は1/4程度の282人。継続を希望しているのは3世帯4人。

委員A：希望者の住居は鉄道駅から離れているのか。

事務局：4～10km程度離れている。

委員A：（運営状況が良くないという）やめる理由は理解できるが、その後の策として、例えば市としてタクシー補助や、他のコミュニティ移動手段の検討など他の考えはないのか。

事務局：総合交通戦略を策定したところであり、その中でこれからの地域公共交通の導入の基準等ルールを定めて、取り組んでいこうとしている。現時点での具体的な計画はない。

委員B：買い物や通院等「生活の足」の不足については、全国の中山間地区における共通の問題だと思う。色々研究されていると思うが、他の地域

においていいアイデアがあればうかがいたい。下関市で実施できるようなものはなかったか。

事務局：他市の事例も数多く見てきたが、中山間地または過疎地における研究はもう少し必要であると考えている。

会長：やめることがやむを得ない状況ということは、認識いただいていると思う。やめた後が非常に大きな問題である。総合交通戦略でも、交通弱者、交通不便地域をなくしていこうという計画となっているが、そこからの具体的にな対策の検討が、まさにこれからの課題であり、事務局でも早急にご検討いただきたい。

委員C：存続を希望されているのは高齢者か。

事務局：高齢で、家族の足が不自由であったり、本人が免許を持っていないかたりである。

委員C：それでは、廃止は生活への影響が大きい。

事務局：月1回の通院や買い物に利用されていたが、今後は近隣住民とのタクシーの乗り合いや、車を持つ親族が助けると聞いている。

委員B：では、孤立というわけではない？

事務局：また、粟野地区には移動販売者が入っており、今後エリアを充実させる予定。また、他社の新規参入も予定されているようだ。

委員C：廃止後の策が決まるまで、コミュニティタクシーを継続するのはどうか。

粟野地区振興協議会（以降、協議会）

：粟野地区は地形的に細長く、海側の自治会に粟野地区の人口の半数があり、そこは駅が近く、長門にも阿川にも行くことができる。コミュニティタクシーの対象地域は主に山側であったが、この地域の住民は高齢者でもほとんど免許をもっており、車を所有している。昨年度コミュニティタクシーの利用者は、粟野地区の人口の1%であった。

運営資金も不足し、協議会から90万円ほど負担金を拠出しているが、その上各家庭から特別賛助金を募らなければならない状況であった。経理事務を行う人員の確保も苦難している。

実際の住民は、親族や隣近所の付き合いもあり、自治会長や民生委員もあり、孤独な状況ではない。

今後の運営の継続は難しいと考え、承認いただきたい。

人丸タクシー（以降、人丸）

：委託料は、人件費が半分、他は車の維持費や光熱費。経費削減のため減便等相談があったが、こちらとしても委託料の減額は難しく、廃止という結論に至った。自分達が粟野地区から撤退すると、遠方の滝部タクシーや神田タクシーが、この地区に対応することとなり、気の毒

であり心配であるが、現在の営業所の立地も悪条件であることもあり、粟野地区から撤退する考えである。

委員 D：利用廃止についてはやむをえないと感じている。一旦は交通の空白地になるとは思われるが、今後下関市として交通戦略に基づいて、交通や福祉面、過疎化や地域の住民の減少等色々な観点から検討しながら、この地区を含めた全体を見据えて、交通戦略に基づく再編計画を作っていく、今すぐに次の交通が保証されないとしても、将来の近いうちに何らかの形態を設定する予定であるとして、理解を得た方が良いのかと思う。

実際に人手不足によって路線が廃止されている所が全国に多くあり、今後も続くと思われる。自治体からの補填や利用者数、地域の負担等を考えながら、交通の方法について引続き前向きな協議を続けたい。

事務局：下関市総合交通戦略の中で、交通不便地域というものを設定し、バス停から 300m 以下という所、鉄道から 800m 以下という所について、外出の機会が損なわれないような形で手段が確保される公共交通の基準作りを施策としており、今年度から取り組む予定である。

また、他市の事例として、基本的には地元で協議会を立ち上げ、運行を行う傾向が多い。タクシーチケットの配布を行う所もある。これらについても、こういった基準とするのかについて、費用対効果も含め検討するべきと思っている。

委員 B：粟野地区コミュニティタクシーの継続は、誰が見ても不可能であると思うが、今後、高齢者の通院や買い物については親類や近所づきあいで確保することができるという事で良いか。

会 長：それでは、本日の議事「粟野地区コミュニティタクシーについて」コミュニティタクシーの終了を承認いただける場合、挙手をお願いしたい。

(挙手多数)

会 長：承認とする。

色々議論があったが、市の方で今後の対応策について検討をお願いしたいという事を申し添えておく。これにて下関市地域公共交通会議（第 1 回）を終了する。最後に事務局から一言お願いする。

事務局：事務局としても、今後も地域公共交通会議の目的が十分に果たされるよう努力したい。

議事「粟野地区コミュニティタクシーについて」は、本会議で承認いただいたため、これから廃止に向けて人丸タクシー（株）に手続きを進めてもらい、また会長からお話のあったとおり、今後についてもし

っかりと取り組んでいきたい。

当会議の今後の予定としては、5月末から6月上旬を目処に、第2回の地域公共交通会議を開催し、生活バスの運行及び、関係する補助等について審議いただこうと思う。日程については別途文書にてお知らせする。

皆様に尽力いただいた総合交通戦略及び網形成計画について、3月末に策定することができた。この計画における進捗管理については、地域公共交通会議で審議いただく事となるため、引き続きよろしく願いたい。